

経産省前テントひろばニュース

テント強制撤去から 3325 日原発再稼働糾弾！

第320号

編集・発行

テントひろば運営委員会

東京電力・柏崎刈羽原発再稼働を許さない！ 2025年9/11 経産省前テントひろば 結成14周年 集会報告 集会でのゲスト等の発言概要

9月11日、2011年に経産省前に脱原発テントが立つてから14年目の日。(レイバーネット)記者は毎年、この集会の取材に出かけている。午後2時開始ということで、最寄りの地下鉄駅には10分前に着いた。外に出るとポチポチと雨模様。でもこの程度なら大丈夫と思っていた矢先に、激しい降雨に変わった。集会の開始時には完全な「土砂降り」になり、時折、ピカッ！バーン！と、耳をつんざくような雷の音が霞ヶ関一帯にこだました。そんな豪雨の中でも、たくさんの方が集まってきた。知っている顔が多かった。

この人たちこそ「反原発のツワモノたち」であり、政府が最も恐れる人たちだろう。幅5メートルの大横断幕が経産省前の玄関に立てられた。「原発やめろ！」と書いてある。かれらの訴えはこうだ。「福島原発第一事故は収束せず、原子力緊急事態宣言下にあり廃炉も先が全く見えず、放射能汚染水を太平洋に流し続けている。その一方、東京電力は柏崎刈羽原発6号炉・7号炉の再稼働を実施しようとしている。絶対に許せない！」。(レイバーネット記事より転載)

午後2時前、私たちは経産省本館前で2時間にわたる抗議行動を開始した。経産省本館前の車道に停めた新社会党の街宣車の上で、朴保さんがオープニング音楽を始めたところ、ぼつりぼつりと雨が落ちてきて、テントひろばの平岡さんが開会の挨拶を始めた頃に雨粒が大きくなってきた。約150名の参加者は雨、時たまの雷に耐えながら14年間を振り返り、ゲストの皆さんの発言に集中しながら脱原発の思いを確認するとともに、経産省に向かって柏崎刈羽再稼働を断念せよと訴えた。

右欄で紹介する通り、雨・雷にもめげず、集会は木村雅英、奥内幸子さんの司会によって進行した。 ↗

武藤類子さん(福島から)

14年の活動、どれも昨日のことのようです。福島原発事故の被害は未だ収束しておらず、東京電力の事故の責任も果たされていない現状で、柏崎刈羽原発の再稼働に強い危機感、恐怖感を持っている。新潟の住民は、再稼働の是非を問う住民投票の実現を求めています。いま社会全体で原発を容認する、無責任な意見が増えている。

しかし、原発の再稼働は被害者にとって耐え難く愚かな選択、核兵器技術と同根の原発の危険性を忘れてはならない。全国の皆さんとともに声を上げていきましょう。

守屋さんが歌「ああフクシマ」を唄ったあと、

小木曾茂子さん(新潟から)

2023年に再稼働推進の動きが加速したが、同年に能登半島での大規模地震が発生した。これは避難計画の課題を浮き彫りにした。その後、地元自治体からの再稼働要請や県民投票の請願があった。14万3,100人の請願署名が集まったが、花角県知事の判断により多様な意見が反映されにくい状況となった。政府と自民党が地元の合意形成を強力に推進し、非公開の懇談会を設置するなど、新潟県やその関連公共団体に圧力をかけている。そこで、私たちは県民独自調査を用意している。

原発の電気はいらない、という声をあげてともに頑張っていきましょう。

古賀茂明さん(元・経産省の官僚)

3・11事故を起こした責任政党は自民党。事故当時、私は経産省に居たから良く知っているが、彼ら経産省役人たちは事故直後から「どうやったら原発を残せるか、東電をつぶさない計画」を立てていた。そこで、経産省は原発事故対応を根本的に考えることなく、原発再稼働を優先して、原子力規制委員会を設置したうえで、避難計画は規制委員会の対象外とした。30km圏に補助金を出して周辺自治体に影響力を及ぼそうとした。これは「どうせ金で何とかできるだろう」という差別的な「原発推進」方針である。

石破首相との本当の闘いは、歴史修正主義と差別主義との闘いにある。大切なのは日本の平和主義であり、核に対する姿勢だ。誰が本当に国民の幸せを考えて政治するのか、自民党政治ではだめだ。しかし、立憲民主党の新人人事体制にも疑問がある。

今の安保法制の下では、台湾有事で日本は台湾(裏へ)

に行かない、とは言えない。アメリカが北朝鮮・中国と日本の関係は危ないと言うなら、今すぐにすべての原発を止めて、核燃料を地下深く頑丈なところに埋める、これが安全保障にとって必要なことだ。また、AIには電力消費が増えると言っているが、それもたいしたことではない。

データ・センターの電力消費を劇的に減らす技術は既に生まれているが、それを住民から隠している。いま、原発をやめるため私たちに必要なことは政治を変えることだ。

上村英明さん(れいわ新選組所属の衆議院議員)

原発の稼働ためには、先住民によるウラン採掘を必要とし、原発稼働中に東日本大震災が起きた。日本には原発も軍拡も要らない。いま、怪しい政党が増えている。彼らは「核こそが安価な安全保障政策だ」といっている。

だから若者から丁寧に話を聞いて、彼らと一緒に私たちが、何に直面しているか考えて運動を強めていこう。

鎌田慧さん(ルポライター)

テントは14年間よく頑張ってきた。自分もずっと六ヶ所に通ってきたが、戦時中の満州と一緒に、その内実が秘密にされてきた。再処理施設は30年間稼働していない。核燃料サイクルが動かなければ原発政策は破綻する。

下北半島が「核半島」になることが心配だ。沖縄基地撤去を戦う若い人たちとも連帯して、彼ら若者へ運動のバトタッチで政治変革を考えていこう。

山崎久隆さん(たんぼぼ舎)

柏崎・刈羽原発が動き出せば、すぐに重大事故になるだろう。長らく稼働しておらず、いわばペーパードライバーが自動車を運転するようなもの。新しいと言われている6号機でさえ、制御棒が動かなくなる事態が生じている。

いずれも金属の老朽化が進み、暴走しかねない状態にある。一緒に、何としても再稼働を止めていきましょう。

一瀬敬一郎さん(テント弁護士)

いま、日本はアメリカと結託して台湾有事で中国と戦うという予測で動いているようだ。そうした事態を招来しないよう、私たちは頑張りたい。日本がいま戦争に向かっていく情勢の下で、国家権力からの弾圧も想定される。

万が一にも逮捕された場合には、すぐに救援センターに電話(03-3591-1301)してほしい。

江田忠雄さん一閉会あいさつー

今日は雨の中、最後まで集まり続け、新しい戦いを切り開く仲間として立ち上がってくれた。ありがとう。いまの社会の中にどのように切り込んでいくか、ここ「テントひろば」は運動の交差点であり、突きつけられている問題にどのように取り組み、解決していくかを考える必要がある。

新しい社会を作るために、私たちがそこにどのように切り込んでいくかを考えるときだ。政治状況が右翼的に再編されようとしているいまこそ、皆さんとともに新しい運動の再出発を考えていきたい。

上記の各発言詳細は、次の動画をご覧ください。
UPLAN <https://shiminmedia.com/video/1125602>
レバネット <http://www.labornetjp.org/news/2025/0911hokoku>

9月14日、放射能汚染土が経産省へ搬入される

福島での放射能汚染の実態、原発の危険を知ろう

今月14日、環境省は福島の大熊町・双葉町にある中間貯蔵施設から経産省、環境省、財務省などが入る都内3ヶ所の庁舎敷地に、全体で80m³(立方メートル)の汚染土を運び込んだ。そのうち経産省の敷地に搬入された土の放射性物質の濃度は、1kgあたり約4千ベクレルだという。それが本館と別館の間の駐車場前に設置された「花壇」に掘られた深さ55cmの穴に投入され、その上を「飛散防止」のためとして、厚さ20cmの通常の土で覆ったという。

一方、去る7月に首相官邸前庭へ搬入された福島原発事故での汚染土は2m³だった。60cmの深さのところ

埋められ、その上を通常の土20cmで覆った。その土の放射性物質濃度は6400ベクレル/kgだったという。

政府は放射能汚染土を「除染土」と言うが、首相官邸前庭には、たった2m³を入れただけだ。その後、上にかぶせた通常土の放射性セシウムの濃度が高くなっているのはもちろんのこと、その場所の高さ1mでの空間線量の増えた数値が報告されている。汚染土以外の何ものでもないから、官邸には極少量しか運び込まれなかったのだろう。一方で、経産省の「花壇」については放射性物質の数値は発表されていない。

汚染土は一千四百万m³も貯蔵されている

政府は、8月26日に閣議決定で2035年頃をメドに県内の中間貯蔵施設にある原発事故による汚染土・廃棄物1400万m³の搬出先を決め、2045年度までに県外で最終処分することが法律で定められているために、それらを県外に搬出し終わる工程表をまとめたという。しかし、その搬出はできないだろう。1400万m³という汚染土は東京ドーム11杯分、ダンプカーで206万台。中間貯蔵施設の面積は1600ヘクタールもあって、それは渋谷区の面積と同じ。880トンのデブリは回収された量が0.7g、全体の12億分の1というのと同じことだ。

この汚染土は、「中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO)法」で福島県外に搬出して最終処分することが定められている。しかし、それができなかったときは、一体それら汚染土はどうなるのだろうか、そのままか。

自分の土地を売らされた住民、売らずに貸した住民はどうなるのだ。国はきちんと責任をとれ。経産省は、搬入した「花壇」での放射性物質の濃度を公表し、現状の数値を明らかにせよ!

(記・高木郁子)

集会・行動予定

- ◆ 9月23日(火・祝) 11時~14時半
さようなら原発9・23全国集会
代々木公園にて、集会後にパレードあり
- ◆ 9月24日(水) 12時~13時
原子力規制委員会前抗議行動(毎週水曜)
- ◆ 9月26日(金) 17時~18時
経産省前抗議集会(毎週金曜)
主催：経産省前テントひろば 場所：経産省正門前
◎ 経産省前の座り込み行動は、平日:12時~16時(月~木)、13~17時(金)、現在土・日・休日の座り込み行動を休止しています◎
- ◆ 9月27日(土) 文明フォーラム@北多摩 講演会
「『廃炉』って、なんですか？」
講師：木野龍逸さん 時間：14時~17時
参加費：500円 会場：東京農工大学農学部(府中キャンパス)第一講義棟16号教室 オンライン参加可能
- ◆ 9月28日(日) 12時~15時
脱原発・青空川柳句会
主催：経産省前テントひろば・乱鬼龍

≪経産省前テントひろば≫
住所：〒105-0003 港区西新橋1-21-8 新虎ビル2F
電話：070-6473-1947
郵便振替口座=00160-3-267170
口座名義=経済産業省前テントひろば
WEB：<http://tentohiroba.tumblr.com/>
Mail address：tentohiroba@gmail.com